

# 第12回 室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会 会議録

## 本会議録について

録音機器不良のため音声データの保存ができず、参加者のメモなどから作成しております。  
発言者及び発言内容にこちらの認識齟齬などがございましたら事務局までお知らせください。  
ご迷惑をおかけしてしまい大変申し訳ありません。

開催日時 令和4年11月29日(火)10:00～

開催場所 室蘭市防災センター 研修ホール

出席者 委員：吉田委員、木元委員、菊地委員、森川委員、須田委員、菊池委員、  
安部委員、遠藤委員、西畑委員、専能委員、山内委員、佐藤委員、石田委員  
事務局：佐野部長、北川課長、田所主幹、櫻井課長補佐、佐藤主査、  
谷口主任、内田主事、古道主事

次第 1. 委員紹介、委員長及び副委員長の選出  
2. 室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会について  
3. 次回開催予定日について

傍聴者 報道関係者 1名

## 1. 報告事項

---

### 委員長及び副委員長の選出について

下記のとおり選出された。

- ・委員長 吉田 英樹 委員
- ・副委員長 木元 浩一 委員

### ごみ処理施設見学について

令和5年1月中にごみ処理施設（メルトタワー21）の見学を予定している。

### 次回開催予定日について

次回の室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会は令和5年2月に開催予定。

## 2. 資料、参考資料の概要

---

### 資料1 室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会について

あり方検討委員会の設置経緯や第11回までの主な検討内容、今後の検討項目などについて説明した。

### 資料2 ごみ処理費用と財源の推移

直近3年間の家庭系及び事業系のごみ量、その処理に要する費用とその財源の推移について説明した。

### 資料3-1 「室蘭市食品ロス削減推進計画（素案）」のパブリックコメント実施結果について

食品ロス削減推進計画（素案）に関するパブリックコメントについて、実施概要や結果について説明した。

### 資料3-2 「室蘭市食品ロス削減推進計画（案）（概要版）」

### 資料3-3 室蘭市一般廃棄物処理基本計画（食品ロス削減推進計画追加）

パブリックコメント後の食品ロス削減推進計画（案）及び室蘭市一般廃棄物処理基本計画への掲載について説明した。

### 資料4 ごみステーションの現状と集約方針について

人口とごみステーション数の推移や道内他市との比較、町別のごみステーション設置数について表で示し、室蘭市の抱える課題や解決に向けた方針について説明した。

### 資料5 令和3年度町会アンケート調査結果

令和3年度に町会に対して実施した、ごみステーション集約に向けたごみステーションの町会管理に関するアンケート結果について説明した。

### 3. 提案された意見・方向性

---

#### ごみについて

- ・排出されるごみを見ているとまだ減量できる余地があるように見えるので、排出者に意識づけしてもらいたい 須田 委員
- ・ごみとなってしまふものの持ち帰りを減らすべき 石田 委員
- ・ごみ袋の値上げで不法投棄が増えてしまう懸念がある 佐藤 委員
- ・ごみ袋が統一されたことで、購入やごみ出しは楽になった 佐藤 委員
- ・コロナ禍からごみ量が事業系は減って、家庭系は増えているがこれの要因として何が考えられるのか 佐藤 委員
- ⇒外出自粛による事業系の減、持ち帰り増加による家庭系の増が要因として考えられる 事務局
- ・ごみ処理手数料値上げによる効果があれば教えてもらいたい 木元 副委員長
- ⇒10月実績までで、昨年比300トンのごみ減量となった 事務局

#### 周知について

- ・人々の行動を変えるためには心の変化が必要 安部 委員
- ・市のLINEであれば若い人にもメッセージを届けやすい 安部 委員
- ・食ロス削減に取り組む団体などを広く周知してもらいたい 吉田 委員長
- ・スーパーのトレー回収と併せて歯ブラシも追加してもらいたい 安部 委員

#### ごみステーション集約について

- ・輪西町は軒先が多い一方で知利別町は軒先がほとんど無いが、これはどのような要因があつてこのようになっているのか 山内 委員
- ⇒輪西町は商店街が多く、通りも狭いため大きなごみSTが設置しにくいことが要因であると考えられる 事務局
- ・ごみST集約は段階的に進める必要があると考える 吉田 委員長
- ・大きなごみSTであっても1,2袋しかでていないところもある 吉田 委員長
- ・既存のごみSTの再利用についても考えてもらいたい 木元 副委員長
- ・助成などインセンティブが必要になる 吉田 委員長
- ・キレイな町づくりになるというメリットの周知も必要 吉田 委員長
- ・ごみ収集事業者にとって望ましい形式のごみST設置が必要 吉田 委員長

#### 食品ロス削減について

- ・フードダーナは全てのお寺で実施するよう取り組むのか 山内 委員
- ⇒各寺院の供物への考え方があるため難しいと考える 事務局

#### その他

- ・プラスチック製容器包装の廃止によるCO2の影響を検証してもらいたい 安部 委員

## 4. 議事録

---

### 開会

#### 部長挨拶 — 佐野 生活環境部長

本日は本検討委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様におかれましては、日頃から本市環境行政にご理解とご協力をいただき、重ねてお礼を申し上げます。

さて、本検討委員会は、令和元年度から3年間にわたり計11回、本市のごみ処理・リサイクル事業が抱える課題に対しまして、関係団体等からご推薦いただいた委員の方々に加え、公募委員の皆様から数多くの貴重なご意見をいただきながら、本市のごみ処理・リサイクル事業のあり方について検討を進めて参りました。

この間の取り組みといたしまして、昨年4月に開始したLINEによる自動分別案内や、本年5月に受付を開始した生ごみ処理機等の購入助成など、委員の皆様からのご提案により実施した取り組みがございます。

また、本年4月には収集地区の再編やプラスチック製容器包装の分別収集の廃止、ごみ処理手数料の改定を実施したところですが、それぞれのお立場から様々なご意見をいただいたことで、本市のごみ処理・リサイクル事業の効率化が図られ、課題解決に向かって着実に前進しているものと考えております。

この度、委員の改選を行い、引き続き食品ロスの削減や事業系ごみの減量、ごみステーションの集約などの課題について、持続可能なごみ処理・リサイクル事業の構築に向けまして、各分野からの専門的なご意見、または市民としてのご意見など、さまざまな観点から積極的なご意見を頂戴し、今後の本市の施策に反映できればと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### 委員長・副委員長選出

各委員からの推薦がなく、委員より事務局に一任するとの声があったため、事務局より、委員長に室蘭工業大学の吉田委員、副委員長に同じく室蘭工業大学の木元委員を推薦し、各委員より異議なしのため事務局推薦のとおり決定した。

### 議題

#### (1) ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会について

事務局より説明

資料1 ごみ処理・リサイクル事業のあり方検討委員会について

<吉田委員長>

ありがとうございました。

この室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会はこれまでに11回開催してきました。委員の改選があり今回が初出席となる委員もいると思います。用語やわかりにくい部分があれば遠慮無くご質問ください。

私の方から資料について補足しますと、ごみ処理手数料の適正化につきましては家庭での負担割合を計算し、その結果について検討を行い現在の1リットルあたり3円を決定しました。

プラスチック製容器包装の分別収集廃止については、分別収集していましたが集まった物の質があまり良くなく、運搬や分別、処理に多大なコストがかかっていました。リサイクルされていたため、本来であればそのまま続けるのが望ましかったのですが、令和6年

に稼働予定の新ごみ処理施設ではプラスチックを燃やした熱で発電し、CO2の発生量を抑えることができるため分別収集を廃止するという検討結果となりました。

A3の資料に記載のある各項目について、今後このあり方検討委員会で検討を進めていきます。生ごみについては、安部委員も実施されているフードドライブなどの生ごみ削減の取組があります。生ごみは水分が多量に含まれており、これをごみ処理施設に搬入した場合、施設での燃焼に負担がかかるため、水切りを推奨していきたい。特に、生ごみ処理機の購入助成もあるのでこういったものの普及を進めてもらいたいと考えています。

事業系ごみについては、これまで市では特に触れていなかった部分となり、今後、取り組んでいく内容となっています。室蘭市で発生するごみのうち、家庭系と事業系で半々くらいの割合で排出されています。一方、事業系ごみの処理費用は他市と比較すると非常に安くなっており、事業者の自己負担が少なくなる一方でリサイクルがあまり進まない原因となっていると考えられます。

ごみステーション集約については、蘭西方面に在住の委員の方であれば実感があると思いますが、軒先収集が多くあり、これによりごみST数が増え、ごみ収集作業員の負担増加に繋がってしまっています。これをどのように集約していき、負担を軽減していくのか今後、検討の必要な事項となってきます。一方で、市民側からすると、サービスの低下となってしまうため、反発は免れないと考えられます。

これ以外にもこの検討委員会では検討していく事項は多くありますので、皆様のご意見やご協力を期待しております。続きまして、資料2の説明をお願いいたします。

## (2) ごみ処理費用と財源の推移、ごみ・資源物の目標値と実績の推移

事務局より説明

資料2 ごみ処理費用と財源の推移ほか

<吉田委員長>

ありがとうございました。

資料では様々な数字が示されていましてポイントだけかいつまんで改めて説明いたします。家庭系と事業系のごみ収集から処理までの費用として、合算で約12億円ほどがかかっており、このうち、財源としては2億円が手数料収入から賄われ、残りの約78%程が税金で負担している現状となっていました。こういった現状を受けて、ごみ処理手数料の値上げが令和4年4月に行なわれました。この資料に関して、新しく委員となられた皆様からご意見などがあればお願いいたします。

<須田委員>

今回から新しく委員となったため、ごみに関する話も初めてで理解ができていない部分も多くありますので、的外れな発言となってしまった際には大目に見ていただきたいと思います。普段から出ているごみを見ていると、まだまだ減量できる余地があるように思えます。市民の皆さんにきちんと意識づけができればごみが減り、ごみ処理の費用を削減が可能なのではないかと考えています。

<石田委員>

よくお店などで包装やレジ袋をもらう場面もあるが、持って帰るとごみとなってしまいます。なので、このようなごみとなってしまふものの持ち帰りを減らすことも効果的だと考えています。

<佐藤委員>

ごみ袋が値上げされたことにより、不法投棄が増えてしまうのではないかと懸念があ

ります。一方で、ごみ袋が統一されたことで、ごみ出しやごみ袋の購入自体は非常に楽になりました。また、プラを燃やせるごみの区分として収集し、燃料とすること自体は良いことだと考えています。コロナ禍になってから事業系のごみ量が減っているように見えますが、一方で家庭系のごみ量は減っていないように見えます。これの要因について、教えていただきたいと思ひます。

<事務局>

コロナ禍で外出自粛が多くなり、これに伴い外食の機会が減り、事業系のごみが減ったものと考えられます。一方で、家庭系についてはテイクアウトや自炊が増えていることからごみ量も増加したものと推測しております。なお、家庭系のごみ量増加についても、本検討委員会で効率的な周知方法を検討した効果もあり、ただ増えるだけでなくある程度の減量効果も出ていると考えています。

<吉田委員長>

事業系の話題となっていますので、イオンの専能委員からご意見などがあればお願いいたします。

<専能委員>

イオンとして食ロス削減の取組は進めております。しかし、不勉強もあって具体的な取組が思い浮かばないため、今後、勉強した上で皆さんに発信していきたいと考えています。

<木元副委員長>

税金と手数料の関係性について、手数料には価格インセンティブがありますので、ごみ処理手数料が値上がりしたことによる効果について教えていただきたいと考えています。また、他自治体の情報があればそれも合わせて教えていただきたいと思ひます。

<事務局>

10月末までの実績で比較しますと、昨年比で300トン程度減少しております。

<吉田委員長>

300トンはごみ全体で見るとどれくらいの割合となりますか。

<事務局>

ごみ全体で見るとおよそ2%程度となります。

<吉田委員長>

他市では登別市が最近ごみ処理手数料の値上げを実施しています。続きまして、資料3の説明をお願いいたします。

### (3) 室蘭市食品ロス削減推進計画について

事務局より説明

資料3-1 「室蘭市食品ロス削減推進計画（素案）」のパブリックコメント実施結果について

資料3-2 室蘭市食品ロス削減推進計画（素案）（概要版）

資料3-3 室蘭市一般廃棄物処理基本計画（食品ロス削減計画追加）

<吉田委員長>

ありがとうございました。

安部委員からご意見があるようですのでお願いいたします。

<安部委員>

食品ロスを削減するため、いろいろな取組に取り組んでおりますが、多くの人々の行動を変えるためには、心の変化も必要だと感じております。

消費者生活展を開催し、環境アンケートやリメイク料理を募集しました。室蘭民報にも協力をしてもらい、展示を見に来た方々には今私たちの直面している生活や問題について提起しました。多くの方々に伝えることはできたと思いますが、若い世代にはなかなか伝えにくく、また、高齢の方からは節約した生活をしているのでフードドライブやリメイク料理は難しいという意見もなされました。

こういった取組や問題がなかなか広がらないことが課題だと感じています。市のLINEであれば若い人でもしっかりとメッセージが届けられると思いますので、わかりやすい内容で発信をお願いしたいと考えています。

<吉田委員長>

計画自体はあったとしてもそれを実践していくことは非常に困難なこととなっています。学生に対してアンケートを実施したことがあります。回答を見ると意識は高くなっているようですが、実践しているところまでたどり着いているのかは不明です。メッセージは伝えたい人にきちんと伝わっているのかが大事だと考えます。

<山内委員>

フードダーナについて、マスコミによると市内の4ヶ寺でやっているようですが、これは市内全てのお寺で実施するよう取り組んでいくのでしょうか。

<事務局>

フードダーナはお寺が自主的に始めたものになります。これが市内全体の取組にまで広がらない要因としましては、各お寺による供物への考え方の違いがあることが要因であると推察しています。

<菊池委員>

聞いたところによると、お寺さんによってはお供えした供物をお持ち帰りくださいとお願いしているところもあると聞いています。どのようなところで実施されているのかご存知であれば教えてもらいたい。

<事務局>

具体的な寺院名までは把握しておりませんが、そのような取組を実施されている寺院があることは伺っておりました。各寺院が廃棄されないよう取り組んでいると考えています。

<吉田委員長>

食品は空き缶などと異なり簡単にリサイクルができるものではありません。その中で、様々な方法で食品ロス削減に向けて取り組んでいる団体や個人がいます。こういったことを広く周知してもらいたいと思います。それにより、フードドライブの件数も増えていくものと考えています。

<安部委員>

最近ではまえどりを掲示しているスーパーやコンビニも多く見かけるようになりました。このまま広がってってもらいたいと考えています。また、スーパーでは食品トレーの回収

をやっているところもありますが、これと併せて歯ブラシの回収も初めてもらいたいと考えています。

先日、コンビニの入口にフードBOXを設置しているところもあり、このような取組を推進してもらいたいと考えています。

<吉田委員長>

イオンではこのような取組は実施されているのでしょうか。

<専能委員>

てまえどりのポスターは見たことがあります。室蘭店でも掲載されているのか確認したいと思います。

<吉田委員長>

ありがとうございます。

では、事務局より資料4の説明をお願いします。

#### (4) ごみステーションの現状と集約方針について

事務局より説明

資料4 ごみステーションの現状と集約方針について

<吉田委員長>

資料5についても併せて説明をお願いします。

#### (5) 令和3年度 町会アンケート調査結果

事務局より説明

資料5 令和3年度町会アンケート調査結果

<山内委員>

自身の所属する町会では月に1回理事会が開催されており、その中で聞かれた事項として、輪西町には軒先が多いが、知利別町はほとんどなく、この理由はなんでなのでしょうかとという質問がありました。輪西町は狭い通りが多いためかなとは考えていますが、理由がわかれば教えていただきたいと思います。

<事務局>

輪西町で軒先が多くなっている理由の一つとしましては、商店街であること、通りが狭く大きなごみSTを設置することができないといったことが主な要因の一つであると考えています。輪西以外の他の地区にも軒先自体はありますが、設置理由については、その地区の成り立ちなどによるものと考えています。

<吉田委員長>

私も輪西町や母恋のごみSTを調査しましたが、母恋では駅前の通りがほぼ全て軒先となっていました。これは、以前、事業系を軒先で回収してもらい、事業を辞め家庭系となってからもそのまま利用しているということが原因にあると考えています。逆に、知利別町や水元町では軒先は少ない傾向が見られています。

室蘭市の状況は小樽市とも似ています。どちらも人口が急減した市となっており、以前の



ように15万人が住んでいるような状態であれば問題は無かったが、人が減る一方でごみSTはそのままとなってしまうことが原因であると考えています。

#### <森川委員>

軒先のごみSTが多い地区や少ない地区など差があるが、これをどっちは良くて、どっちは悪いというような形で捉えられることには抵抗があります。蘭西方面で軒先が多いということはその通りではありますが、昔の町づくりの中でごみSTを個別で置いてよいとなった経緯があってこのようになっています。これを改善していくのであれば、歴史的にどうしてそのようになったのかについても確認する必要があると考えています。

以前、函館市と北斗市に訪れた際に、どちらも全て戸別収集となっていました。ただただごみSTをまとめることだけが正しいことなのか考える必要があると思います。また、集約後の新設や撤去にかかるコストについてもよく考える必要があると考えています。

#### <吉田委員長>

ごみST集約も必ずしも全てを10世帯以上でというのはなかなか困難な道になると思いますので、段階的に進める必要があると考えています。

室蘭市全体を戸別収集にするという話はかなり困難な話だと思っており、実現するためにはそれ前提の町づくりが必要になると思います。特に現在のように広い地域に人が住んでいる状態では実現はできないと考えています。

集約に関して、現状として大きなごみSTであっても1~2袋程度しか出ていないようなところもあります。また、誰が管理しているのかといった情報も必要になります。母恋であればごみ収集事業者に排出されている袋数を確認していますので活用できると考えています。

江別市ではごみの排出状況を把握しており、しばらく出なくなった場合には社会福祉関係と連携して対応するなど、社会福祉の面での活用もされているようです。

#### <木元副委員長>

アパートの目の前にごみSTが設置されており、住んでいる身としては便利だと感じている一方で、数十秒歩いたところにも別のごみSTが置かれており、集約は必要だと感じています。

また、今既にあるごみSTもなんらかの形で再利用ができないかと考えています。たとえば、燃やせるごみは週に2回の収集ありますが、集約したところはそのままで、それ以外は週に1回しか回収しないなど、ただ撤去するだけではない活用を考えていただきたいと思います。

#### <吉田委員長>

ただ集約を進めようとしてもなかなか進みにくいとは考えており、助成をするなどインセンティブが必要になると考えています。また、キレイな町づくりを目指しているなど、市民のためになるようなことを伝えていく必要もあると思います。

新しく設置されるごみSTも折りたたみや開口部が2箇所あるなど、ごみ収集事業者に確認してもらい望ましい形式での設置をお願いしていきたいと思います。また、委員の皆様におかれましても、ごみSTに関するアイデアがあればご意見をお願いします。

#### <森川委員>

資料で町会へのアンケート結果が示されているが、これは今後どのように活用されるのか考えがあれば教えてもらいたい。そして、このアンケート結果を町会に示すのであれば事前に連合町会と協議した上でお願いしたいと思います。また、細かい部分ではありますが、表現として、ありとなしは逆にしてもらいたいと思います。

#### <吉田委員長>

町会アンケート結果については、事務局と連合町会で調整の上、対応をお願いします。

事務局より、その他をお願いします。

## その他

### <事務局>

今回のあり方検討委員会は2月頃の開催を予定しております。

### <吉田委員長>

最後に、全体を通してご意見などがあればお知らせください。

### <安部委員>

あり方検討委員会ではコスト削減をテーマとして議論しており、プラスチック製容器包装が廃止となったのもこれが主な理由になっていると考えています。コスト面での削減効果は以前の説明から分かるのですが、プラスチック製容器包装を廃止したことで、CO2にどのような影響があったのか検証をお願いしたいと思います。

### <吉田委員長>

このあり方検討委員会ではごみに関する議論が行なわれていますが、今回、新しい委員の方も加わったこともあり、この機会に委員でメルトタワーの見学を実施したいと考えております。時期としては1月中を予定しており、改めて皆様に案内をお送りいたしますので、ご参加のほどよろしく申し上げます。

また、皆さんのお手元に町内会・自治会の未来を考えるシンポジウムのパンフレットが配られているかと思います。委員の中には町内会連合会から参加いただいている方や、町会に加入されている方もおりますし、あり方検討委員会の中で議論を進める際にも参考となると思いますのでご参加くださいますようお願いいたします。

長くなってしまいましたが、これで第12回あり方検討委員会を終了とします。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。